

上越教育大学大学院 同窓会とともに

会員の皆様には、それぞれの地域、それぞれのお立場でご活躍のことと拝察し、お喜び申し上げます。私は、昭和60・61年の最後の大雪の時に、障害児教育専攻の院生としてお世話になり、その後、養護学校の副校長や教育センターの指導主事を経験しました。大学院修了後は、指導教官だった星名先生を囲んで「聴音研」

(聴覚と音楽の研究会)が年1回赤倉であり、スキーをしながら研究発表や院生の修論検討会などに参加してきました。学会での自主シンポジウムにもつながり、大きな力になりました。その後、平成14年1月から本学教員となり、同窓会の理事、そして、中村雅彦先生の後を引き継ぎ、平成23～25年度に大学院同窓会の事務局長の仕事をしていただきました。

理事になったときに、同窓会の規約や役員などの組織、各都道府県の支部活動、会員名簿の管理、各種助成などが、とても充実したものであることを改めて知りました。特に、海外教育研究助成、卒業生・修了生への研究助成、院生協議会助成、後援会助成、学生支援・就職支援助成、支部及び各専攻コース等の同窓会助成な

ど、予算面でも充実していることもわかりました。そこで、障害児教育専攻・特別支援教育コースの同窓会を企画し、修了生の長澤先生(新潟大学)、三浦先生(山形大学)、武田先生(和歌山大学)の講演会、新潟県内の教育委員会や特別支援学校の教頭先生によるシンポジウム、そして、青森県で出前同窓会を行いました。講師の旅費、会場費、発送費、事務費など、大学院同窓会の助成を受けることができました。

また、同窓会事務局長となつてから、各都道府県の支部が活発に活動していることを知り、年に1回は活動報告をいただき、懇親を深める場を用意する必要があると感じました。そこで、規約にあるように理事会を開き、評議員会開催の準備に当たりました。7月、学長・副学長にもご出席いただき、直江津学びの交流館2階多目的ホールで各都道府県の支部の代表にもご参加いただき、評議会を開催することができました。

上越教育大学は、平成16年に国立大学法人上越教育大学となり、平成20年には教職大学院が設置され、ますます充実した研修、研究の仕組みが整いましたが、一方で、大学を取り巻く厳しい状況もあります。現場の教員の研修、研究をより充実していくためにも、また、教育現場で当面する諸課題の解決のためにも、修了生同士や修了生と大学の連携が益々重

要となつていきます。そのようなことから、同窓会及び各都道府県の同窓会支部が大きな役割を果たすものと考えます。現在の同窓会及び支部を組織化していく上で、元学長の渡邊先生、亡き戸北先生には大きな支えとなつていただきました。また、事務局長として中村先生には現在の基礎を築いていただきました。これからの大学院同窓会の運営は、益々大学と連携することが重要であり、教育現場の諸課題に立ち向かつていく修了生と手をつなぎ合い、支え合つていくことが必要だと考えます。

上越の海と山と大地は、昔も今も変わつていませんし、そこで暮らす人々のやさしさも現在につながっています。大学院同窓会で今後もつながっていきましょう。



臨床・健康教育学系
特別支援教育コース
齋藤 一雄

修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。
詳細については、公式ホームページをご覧ください。

上越教育大学 同窓会

お問い合わせ先 上越教育大学大学院同窓会事務局
E-mail:dousoukai@juen.ac.jp

齋藤一雄先生は、平成28年3月を以つて上越教育大学を定年退職なされます。大学院同窓会理事、同事務局長として、各県支部活動の充実、大学院同窓会評議会の設立と運営に、多大なご尽力とご貢献をいただきました。大学院同窓会を代表し深く感謝し、御礼を申し上げます。まことにありがとうございました。これからも、大学院同窓会にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

上越教育大学大学院同窓会長 井澤 文夫